２０２４０１０５
Vol.117

会報誌　「ドローン Magazine」《特別号》いまさらキャンプ

コロナ過で始まったとされる「にわかキャンプ」もやっと下火になってきました、非文化的な生活、非日常的な生活をおくりませんか、　　・・・「不自由を常と思えば不足なし」

＜＜キャンプとは＞＞

キャンピング（キャンプ）とは、野外での一時的な生活の事です

- ラテン語の「campus」（カンプス）
- フランス語の「champ」（シャン）は「**野**」を意味する。
- 英語の camp や camping も同系統の言葉とみなします。

現在のキャンピングは、キャンピングカーや車中泊、テントや現地の地形・地物を利用した覆いでの宿泊や宿泊を伴わない日帰り、現地のログハウス、ロッジや建物を利用する、又は専用の準備がされている豪華な施設を利用する**グランピング**も人気のキャンプです。

※岩窟などの自然地形を利用、簡単なツェルトなどでビバーク、積雪期に雪洞を掘る、イグルーなど、広くは野外、屋外で一時的に生活することを「**キャンプ**」言います。

＜＜本当のキャンプ＞＞

キャンプの達人なる方々は、「**それはキャンプでは無い**」とか「**キャンプを知らないのか**」と批判をする声も多くありますが、全てが立派な「キャンプ」です。人それぞれが自己の価値観と与えられた環境で自由に野外に出てみましょう。

「自然環境のもとで生活すること」を総称してキャンプと言いましょう。

＜＜キャンプの意義＞＞

・創造的な行動、**創意工夫**をする：非日常からの必要性の発見
・**自然の美しさや厳しさを知る**：自然環境での生活、過保護からの脱却
・**心身の成長**：活動中の知恵と体力、考える力
・複数での参加の場合は**対人関係**（コミニュケーション能力）：個人の限界を知る
・その地域での**環境や文化**：生活様式や地域差を体験で学ぶ
・災害や苦境の対策：非日常の生活が**災害時等に生きる力**となる

＜＜野生に蘇る＞＞

自然の中で必要なものや必要な事に自分なりに優先順位を付けながら求めていきます、日常の贅沢三昧や裕福な生活環境から真に**必要なものを自ら考え学びながら選択**していきます。
ここでの優先順が低いもの＝不要なものに近いのです。
当然、人によって価値観や趣味によっても差異が出てくるでしょう、個人の尊重が最優先します、どの様な理由が有れ、価値観の押し売りはできません。

その中で、必要な物が**無ければどうするのか**、創意工夫から、**ある物で間に合わせる**か代用品を**作ればよい**のです。

創意工夫の例

・**箸やフォーク**が無ければ小枝や竹を使って作る事を学習し、
・急な雨が降ればブルーシートで**仮のフライシート**を作る、
・**テントのポール**が無ければ小枝で代用し、小杭も簡単に作れるでしょう。

「無ければ作ればよい」、出来ない事は「どうすれば出来るか」を考えると言う「ポジティブシンキング」な発想と行動力が必要です。

※特に目立つのが、出来ない理由ばかりを言い訳の如く発する現代人の大人から子供達が非常に多い事です。これは自己を正当化し優位な立場に立つ自己本位な考え方であり非建設的です。

先ず必要であろうものは、「**食・衣・住**」（衣食住では無い）、次に「**楽**」（やすらぎ）では無いでしょうか、

動物に例えると、

殆どの動物は生きるための食べ物を確保する事に多くの労力や時間を掛けています、そして その合間に体を休める、衣は季節に合わせて毛並みを変える。

次に余暇（娯楽、安らぎ）安らぎには、張り詰めた活動ばかりではいけません、心の安らぎを求めて散歩や森の散策、登山や川遊び等の新たな手順を取り入れます。

＜＜安全確保＞＞

自然環境での活動に於いて、衣食住と並行して重要な事が「安全」です、先の動物でも、食べ物（獲物）を探し、食事中であれ、常に周囲を監視・警戒し身を守る行動をとっていきます。特に野外に於いての非日常生活では周囲からの情報や助言は期待すべきではなく、**自分の身は自分で守る事**が基本原則となります。一般的な会社や組織、学校等での過保護な環境は存在せず、自ら成長せざるを得ないのです。

安全は、小さな切り傷・擦り傷や虫刺されから始まり打撲や骨折等の怪我や病気等に至る全てが該当し、常に情報や知識と注意で自分や周囲の者を守っていきます。

※必要により救急箱の準備や近くの医療機関を調査しておきましょう。

＜＜キャンプの種類＞＞　ここでは一般的なキャンプとユニークなキャンプがあります

目的や方法及び環境から様々なキャンプを楽しみましょう。

・組織的キャンプ（学校、青少年団体やスポーツ団体等）
・娯楽的なキャンプ（家族キャンプ、個人キャンプ）
・登山中のキャンプ：素早い設営・撤収を重視、道具の総重量や点数が制限される
・リクレーション目的のキャンプ：自然の中でゆったりと生活を送り、心の保養を行う
・分類別キャンプ
　：ディキャンプ：日中だけで行うキャンプ
　：ツーリングキャンプ：キャンプを組み込んだツーリング
　：オートキャンプ：車のすぐ横にテントやタープなどを張るキャンプ
　：グランピング：大自然での高級ホテル並のサービスが受けられる施設キャンプ
・キャンプ場の種類
　：一般のキャンプ場：テント脇まで自動車の乗り入れができないキャンプ場
　：オートキャンプ場：駐車場とテントサイトが同一、荷物の運搬手間がない
　：大人のキャンプ場：米国などで〝Adult〟と**表示し子供染みた行動を取る者**を入れないキャンプ場、**マナー違反のキャンパー**を入れず静かに過ごせるキャンプ場

＜＜キャンプ用品＞＞　本当に欲しいもの

結局は「必要最小限の持ち物」はどんどんと増えていくのです。　優先順位を付けましょう

・テント：キャンプ形態に合った大きさ
・寝袋：季節、気温に合ったもの
・毛布、マットレス：必要により
・懐中電灯：目的によりランタンやヘッドライト
・コッヘル：１組は欲しい
・コンロ：小型、ストーブ一体型等、状況による
・テーブル、椅子：折り畳み式が便利
・スコップ：適宜の大きさ
・焚火台：直火でも有れば雰囲気が出る
・衣類等小物
　：着替え
　：レインコート
　：帽子
　：軍手、ナイフ、ライター、ラジオ等々
・携帯電話：持っていない人は居ないでしょうが、予備バッテリーと電波の確認を、

気にならない　どうでも良い話

＜＜火のつけ方＞＞

キャンプや野外活動ではサバイバル術、便利な物が無くても生活が出来る事も学ぶ、簡単な例で火のつけ方を考えてみる。

・火打石：硬い石（鋼鉄）を打ち付けて火花を出して点火
・摩擦法：往復摩擦又は回転摩擦により木の繊維を作り、その粉末に摩擦熱を加えて着火
・打撃法：鉄を石にぶつけて火花を発生させて点火
・圧縮法：空気を圧縮し高温にすることで発火
・光学的方法：レンズ敷：太陽光を凸レンズで火口に集めて焦点で火種を得る
　　　　　　：鏡式：太陽光を凹面鏡で火口に集めて焦点で火種を得る方法
・化学式：比較的低温で化学反応を起こす物質を発火剤として用いる方法
・マッチ：リンが酸素と結合することによる燃焼を利用した
・ライター：ガスライターやオイルライターなどは化学変化による方法
・発熱式：ニクロム線等の通電物に電流を通しジュール熱を発生させ、発火温度にして発火
・放電式：電気スパークを利用して火口に点火する、点火プラグ等

※着火方法も色々あります、体験としてやるのは非常に良い事ですが、限られたキャンプ時間を「火付け」で浪費はしたくありません、文化的なマッチやライターでさっさと点火しましょう。

※早い話が、マッチやライターで素早く点けて、次のお遊びに行きましょう。

＜＜火の育て方＞＞

燃えるための 3 要素、「**可燃物**」、「**熱**」、「**酸素**」を良く理解する、この 3 つが揃わないと燃えないのです。逆に十分な酸素と熱があれば鉄でも燃えるのです。

点けた火を必要な大きさに育てなければいけません、その為には 3 要素が仲良くできるような環境を作ってください。

可燃物は十分な熱が上がりますか、表面積を増やし、水分を少なく（水分は 100℃が限界です）、可燃物間を疎にして空気（酸素）の循環を良くしましょう、炎が更に熱を上げてくれます。

酸素が少なそうなら、強制的に酸素マスク（火吹き）で与えましょう、団扇も有効な手段です。

＜＜材木、薪について＞＞　火種が無くても燃える？

木材の発火点とは火種が無くても燃え出す温度のことです。　引火点とは加熱し火を近づけると燃え出す温度のことを言います。（木材の引火点は 240-270℃、着火点は 400-500℃）

木は燃えやすい素材であり一般に、密度により着火時期が変わってきます。

＜＜火の消し方＞＞

火を消すには、3 要素の何れかを又は複数を取り除けば良い、出来れば今燃えている薪は燃やしきる余裕をもって焚火をし、その後水をかけて温度を下げる。残り炭は、火消し壺等に入れて空気を遮断する等、火を点けた者が完全に消火を確認して焚火は終わります。

＜＜最小限の生活と思っていた＞＞　災害と災害難民

ある被災現場で倒壊した家屋に飲み込まれて発見された被災者は命からがら**「助けてー」**と生命の救助（生きる事）を求める、幸いにも救助された被災者は安堵し、即座に寒い！事を訴えてくる、暖かな**「衣類」**と空間を確保すると、次の言葉はお腹が空いた事を訴え、その場のパンで**空腹を満たす**、やっと被災者に笑顔が現れた。

ここからが人間は大きく分かれて、元気に復活し早い時期に更なる被災者への救助側に転身し救助や捜索から生活の支援をする人もいる中で、救助後に復活しても何時までも被災者側から離れずに、家が倒壊したので一時避難場所ではなく、**「早く仮設住宅を作れ」**、**「パンとおにぎりばかりは食えない」**、**「トイレが汚い」**、**「隣の鼾で寝むれない」**、**「TVが無いので情報が無い」**、**「スマホの充電場所が少ない」**等々、どんどんと不満を出してくる。

※生きる力(サバイバル力)があれば災害での非日常の環境でも早く自立や復活が出来るのです、いつまでたってもメディアの口車に便乗して不平や不満を言い続ける元被災者も多くいる。

※すべてが全てでは無いけれど被災現場は長期化すると人生の縮図が垣間見れる。

ちょっと特異なキャンプ紹介

＜＜グランピング＞＞　Glamping　「豪華なキャンプ」

グラマラス（glamorous）魅惑的なと、キャンピング（camping）で作った造語で、テント設営や食事の準備などの煩わしさから解放したキャンプの**美味しい処取りの体験活動**です。

＜＜デイキャンプ＞＞　Day　camp　「気軽で手軽なキャンプ」

デイキャンプ（日帰りキャンプ）とは、その名の通り、キャンプを日帰りで楽しむスタイルのことです。長期間のキャンプとは異なり、１日のうちに準備から片付けまでが終わるように計画し、キャンプを実行します。

手軽にキャンプを楽しめる、宿泊を伴わないので**持ち物が少なく気軽**に始められる。準備や片付けの時間の代わりに、ゆったりする時間やバーベキュー等のプログラムが組める。

＜＜チルキャンプ＞＞　Chill　Camp　「なにもしないキャンプ」

「のんびりする・くつろぐ・まったりする」キャンプの形態で、眠くなったら寝る、お腹がすいたら食べると言う自由気ままに過ごすキャンプです。

＜＜チェアリング＞＞　と　＜＜チェアキャンプ＞＞　Chair ring　「椅子だけのキャンプ」

チェア（椅子）を持って自然環境の至る所で広げて座り、くつろいだり、本を読んだり、ゲームをして楽しむ活動、椅子やロケーションに拘る方も多い。

チェアリングは椅子さえあれば、誰でもすぐに楽しめる活動ですが、

・荷物は必要最小限にする

・１−２名の少人数が基本、自分だけや友達・家族とのんびり

・唯一、トイレの場所を把握しておこう

・椅子はこれ！　軽量でコンパクト、座り心地も必要

＜＜ドローンキャンプ＞＞　Drone Camp　「ドローンが飛ばせるキャンプ地」

出ました、言わずと知れた**北海道ドローン研究会**のドローンの飛行できるキャンプサイトでのドローン飛行を行う事を言います。ドローンキャンプサイト（D.C.S）ではドローンの飛行や練習・空撮が可能です。

★全国の個性派キャンプ場紹介

★北海道ドローン研究会キャンプ部「焚火会」　の紹介

　コンセプトは自由、きまま、ゆったりのソログルキャンみたいなもので一緒にキャンプはするけれど、過ごし方や楽しみ方は基本的に自由、テントを設てる人、車で寝る人、ドローンを飛ばす人、ふらっと来てふらっと帰る人、・・・極力気を使わずに過ごすという集まりです。

http://www.hds.comdrone.net/20bonbonfire/bonbonfire.html

２０２４年の焚火会活動予定

- ２０２４年２月１０日－１２日　イグルーをつくる、イグルーでねる　D.C.S 上富良野
- ２０２４年５月４日－６日　焚火会　詳細未定　D.C.S 札幌真駒内
- ２０２４年８月１日－５日　夏季合同行事に参加　D.C.S 深川納内
- ２０２４年９月１４日－１６日　ひまわり畑で焚火を囲む　千歳今農場
  （ひまわりの開花状態で日程変更有り）最終決定は８月中旬

札幌市西区西野４条１０丁目１２番１２号
北海道ドローン研究会事務局　ドローン Magazine　編集部
JR8YQH　無線局（JA5KTF／8）
防災士、職長安全衛生責任者、応急手当普及員、救急法救急員、防火対象物点検資格者
甲種防火管理者、北海道アウトドアガイド、自然体験活動全体指導者、project WILD Facilitator
ボーイスカウト WB 実修所（BS、VS）、研修所（団、BVS、RS）
Clubhouse　CLUB :「北海道ドローン研究会」
com@forest.ocn.ne.jp
http://www.hds.comdrone.net/